

桜

萩原 朔太郎

桜のしたに人あまたつどひ居ぬ
なにをして遊ぶならむ。

われも桜の木の下に立ちてみたれども

わがこころはつめたくして

花びらの散りておつるにも涙こぼるのみ。

いとほしや

いま春の日のまひるどき

あながちに悲しきものをみつめたる我にしもあらぬを。

〈出典 『萩原朔太郎全詩集』 (筑摩書房、一九七九年)〉

【著者】 萩原 朔太郎 (はぎわら さくたろう)

一八八六 (明治一九) 年—一九四二 (昭和二七) 年

詩人。群馬県の生まれ。

【著書】 『月に吠える』 『青猫』 『純情小曲集』 など